

子どもたちが教えてくれたこと ～保護者アンケートから見る統合保育～

子ども発達支援センター愛 児童指導員 木内 杏 寿

1. はじめに

子ども発達支援センター愛（以下、当センター）は2006年4月に開設された児童発達支援センターで、開設当初より合築施設である愛児園湯田保育所（以下、保育所）の年長児クラスとの交流保育を、逆統合の形態で行っている。今回は、その交流保育の実態について、保護者アンケートをもとに分析、考察し、統合保育の在り方について考えた。

※統合保育とは、障がいがある子とない子が共に育ち合う保育の形態である。

2. 交流保育の取り組み

毎年、6月頃から月に2～4回、午前中に交流保育を行っている。秋頃からは、給食も一緒に食べている。また、行事などを保育所と合同で行うこともある。保育所の年長児クラス（以下、『げんきくん』）の子どもたちが、数名ずつ、当センターのクラスに分かれて入り、一緒に活動を行っている。

交流保育での活動は、お集まり、ふれあいあそび、スケーター、マット滑り台、感触あそび、クッキング、新聞あそび、お買い物ごっこ、製作などであり、互いに交流しやすいように職員が介入をしながら活動を行っている。活動を進めていく中で、次第に子どもたち同士



でやりとりをしたり助け合ったりする場面が見られるようになっていく。また、交流日以外でも、行事や園庭（当センターと保育所との共同スペース）などで顔を合わせると声をかけ合う姿も見られる。当センターの各クラスには『げんきくん』の、『げんきくん』には当センターの子どもたちの顔写真を掲示し、顔と名前が覚えられるようにしている。

3. 保育所の概要

愛児園湯田保育所は定員180名の保育所で、1969年の開設当初から毎年10名程度障がいがある子の受け入れをしている。障がいがある子どもも自然に保育の中に溶け込んでいくことを目標とし、「障害という側面ばかりに目をとられるのではなく、人間らしく自然さを大切に、より本物（子どもの本当の姿）を見つめ、子ども・親・職員が共に育ち合う」という保育方針を掲げている。

4. 保護者アンケート

当センターに子どもを通わせている保護者（以下、当センター保護者）と、保育所に子どもを通わせている保護者（以下、保育所保護者）にアンケート調査を行い、その中から抜粋したものを下

記の表にまとめた。なお、回答の趣旨を損なわない範囲で、表現方法を統一した。

表1 【調査の概要】

調査期間	2014年10月1日～2014年10月10日 (10月1日に質問紙を配布、10日に回収)
有効回答率	当センター保護者57% (46名に配布し、有効回答数26名) 保育所保護者34% (210名に配布し、有効回答数71名)
調査項目	『問1. 統合保育のメリット／デメリットについて』 『問2. 統合保育で子どもに変化があったか』 『問3. センター(保育所)を選んだ理由に「統合保育をおこなっているから」ということが含まれるか』 『問4. 統合保育は必要だと思うか』 『問5. その他 自由記述』

表2 【アンケート結果】

問1. 統合保育の場に自分の子がいることに対して、メリット・デメリットを感じていますか？ どんな風を感じるかお書きください。	
当センター	保育所
<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常の子どもたちからもらえる刺激が、自分の子の発達に良い影響をもたらしてくれる。健常の子どもたちに障がいについて知ってもらえる場になり、理解してもらえたり、偏見も少なくなるのではないかと。 ・色々な子ども達と一緒に過ごすことによって、出来ることが増えたり、やってみよう！！という思いが出てきたりしています。 ・幼い頃に障がいを持った子と接することで自然な関わりができる。これから始まる学校生活の中で障がいを持った子は困った時、お友達に「手伝って！！」が言えたり、健常児は自然に手助けができるようになってもらえればうれしいです。小学校の交流学級の原点だと思います。今より将来のメリットの方が大きいと思います。 	<p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人に偏見をもたなくなる。助けたり、優しくできる。 ・色々な友だちがいる事を知り、友だちを助ける優しい心を育てれる。何で歩けない子がいるのか、何でおしゃべりできない子がいるのか、子どもがそういった子どもと接する事で理解することができる。 ・どんな性格の子どもでも同じように生活できるということがわかる。子どもが障がいについて興味を持ち、理解する機会ももてる。 ・障がいのある子を特別な目で見るとはならず、同じ一人の人間として見ている。できない事をすすんで助けてあげている。 ・人間社会は様々な状態を生まれもった人間、途中で何らかの弱点をもってしまうものと共に生きていくのは、あたりまえだと認識できる。

<p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人がパニックをおこした時や機嫌の悪い時に集団の中に入ることができず孤立してしまうのではないかと思うこと。時間をかければ自分でできることを他の子どもに手助けされてしまい自分でやらなくなること。トラブルを起こした時、自分の気持ちや思いを伝えられないので対応に困る。 ・やはり、差が見えて、それが“目立つ存在”として他の人達に見えてしまう。いろいろ第三者から言われてしまうかも、という不安が出てくる。 ・他の定型発達のお友だちとの比較から「自分はだめだ…できない…」など自信をなくしてしまう。 ・たくさんの子と関わるので病気に感染しやすい。(風邪など) 	<p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・叩かれたり、ケガをさせられる事がある。 ・悪気はなくても少し違う子供さんを見てそれを口にしてしまったり指をさしてしまうことが何度かあった気がします。 ・運動会、発表会など、統合保育ならではの伸び伸びしすぎて、健常児には物足りないのかな?と感ずることもある。 ・今の保育園ではないと思いますが、先生の数が不足している場合、障がいのある子、その他の子に、それぞれ目が行き届かなくなるかもしれないと思います。 ・その子に関して質問された時、親である自分が、上手に説明できるのが不安です。 ・障がいがあっても、なくても、同じ人間なのだから、ある訳がありません。 ・デメリットに感ずる事は全くありません。
<p>問2. 統合保育の場に自分の子がいることで、お子さんに変化はありましたか? また、どのような変化がありましたか?</p>	
<p style="text-align: center;">当センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな事、人に興味をもって、いろいろ、楽しんでいる様子です。できることも増えました。 ・言葉がよく出るようになった。人見知りがほとんどなくなった。トイレに自分から行くことが少しずつ増えてきた。他の子どもにあまり興味を示さなかったが、センターに行くことで他の子と遊ぶことができるようになった。 ・集団の場が苦手であったし、どのような行動をとるのか、よくわからなかったが何回かの交流の場で自分の子の特徴がわかってきた。(先生のおかげです) ・みんなと会えることを楽しみにしています。 	<p style="text-align: center;">保育所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を選ばず接する姿が見られたり、よだれがついても嫌がらず(汚がらず) タオルを貸してあげたり、拭いてあげたりできるようになった。 ・変化というか、足の不自由な子を登園の際お見かけして、娘が「何で自分で歩けないの? あの子」と聞いてきたので説明しました。「ふーん、がんばってるんだね」等、体の不自由なお子さんに対して娘と意見をかわす事ができ、娘の心の成長を感じました。 ・はじめは少し「珍しい」という目で見ていた気もするが、自然にやさしい気持ちで接することができている様子。ふれあいの日をとてもたのしみにしている様子。
<p>問3. お子さんが通っているセンター(保育所)は、統合保育を行っていますが、このセンター(保育所)を選んだ理由に「統合保育をおこなっているから」ということは含まれますか?</p>	

当センター	保育所
<ul style="list-style-type: none"> ・普通の幼稚園に通わせたかったけど、難しいという事だったので、センターに通っています。でも、保育園の子どもたちと関われる事は良い事だし、楽しいと思います。今は、普通の幼稚園じゃなく、センターで発達に応じて対応して頂いて、本人が楽しく通えてそれが一番かなって思います。 ・統合保育を行っている事は知りませんでした。が、年長で幼稚園へ通わせようか悩んだ際、統合保育があるのでセンターでも大丈夫と思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・娘には、普段の生活の中で大人が教えなくても自然に「何でだろう」「どうしたら良いのかな」と自分で人の気持ちを考えて対応できる大人になって欲しいから。 ・長女が障がい児なので。障がい児だからといって特別な保育はしたくなくて。普通に保育園に通い…育児をしたかったため。義務教育になれば必然的に障がい児枠で選ばないといけないため。 ・どこも行っていると思っていたので、特別、考えた事はありません。

問4. 障がいがある子と、障がいがない子が一緒に保育を受ける場は必要だと思いますか？それぞれ理由を教えてください。

当センター	保育所
<p>必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある子にとって、障がいのない子から受ける刺激はとても貴重だと思います。そして障がいがない子も世の中にはいろいろな仲間がいるんだな！！そしてそれは普通なこと、そういう子たちの手助けをしたいなあと思ってほしいからです。 ・障がいの有無に関わらず、脳が柔らかい幼い時にたくさんの刺激を受けることは、子どもの成長にとっても効果のあるものだから。子どもは、大人のように先入観を持って物事を見ることが少ないため、健常の子どもにとっても、障がいというものを個性として、受け入れやすいため。 ・偏見がない社会になるのでは。 ・私が小学6年生の時、通っていた小学校に特別支援学級ができました。私が6年生ということもあり、お世話をする機会は多く、記憶にも残っています。でもそれまで障がい児との関わりの経験はなく戸惑ったのを覚えています。6年生と1年生という学年の差もあつ 	<p>必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ社会に暮らしているの、一緒の方が自然と思うから。 ・別に分ける必要はないと思う。社会にできれば区別されないし、色んな人がいる中で生きていくから。 ・人間は一人一人個性もあり、いろんな子がいるということを知る必要がある。 ・存在を知らずに育ち、社会に出て、排除する意識をもつのは危険だと思う。 ・社会に出た時にいろんな人がいると言うことを自然に受け入れることができるのでは？と思う。手助けを自然にできる人になってほしい。 ・人にはいろんな人がいて、みてすぐわかる障がいもわからない障がいも障がいという言葉の前に自分でわかってほしい。 ・同じ時間を共有し、関わらなければ、わかり合えないことが、たくさんある。それは、障がいがある、ない関係ない。 ・障がいを持っている子と接したことがなければ

<p>たので偏見はなかったように思いますが、戸惑ったのは事実です。もし、同学年だったら…と思うのです。偏見なく接することができるのは、やはり幼児期だと思います。お友達から刺激をたくさんもらいたい時期でもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の子→1人のみでなく、みんなで遊ぶことの重要性、そしてそのみんなの中で認められることの意識が日常生活の身辺自立につながっていくのではないかと思います。障がいがない子→社会性が育ち、健常のみでない世界があることが小さい時からわかる。優しさ、相手を思う気持ち、相互理解へとつながるのでは。 ・健常の子と接することで伸びる子がたくさんいるから。ただ、全ての障がい児の子にとって必要なかは疑問に思います。(感覚過敏や他害がひどい子など) ・障がいの子もできるんだって思ってもらったり…皆同じ子なんだと思ってもらうのに必要だと思います。 ・一緒にいる時間が長い程、「障がいのある子」でなく、「そういう子」と意識に変化するように思うから。「そういう子」を知っていると新しく「そういう子」に出会った時、自然に受け入れられるのではないかと思います。 <p>必要ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答者なし 	<p>ば、接し方に戸惑うかもしれない。自然体で付き合いができることが大切だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園や小学校、中学校といったものは、社会の縮図であると思う。高校でも大学でも同じように様々な人格、人種の中で育つべきと考えるので。 ・「みんな違ってみんないい」のような感情が自然に生まれるような気がします。 ・自分ができていることが当たり前ではないんだよ、という事がわかってくれるきっかけにもなるかもしれないので。 <p>必要ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し大きくなったら必要だと思うから。 ・“必要”とは思いませんが、一緒に保育を受ける事は良い事だと思います。“いろんな子がいる”事は、子どもの時から知っていた方が大きくなるにつれて、“偏見”がなくなると思う。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらとも言えない。 ・どちらでも良い。 ・今回のアンケートではじめて“統合保育”という言葉を知りました。そのことについて考えたことはありません。 ・判断は難しい。障がいのないお子さんが障がいのあるお子さんにどう接するかを知るには、親からなかなか説明もできないのでいい事だとは思う。
<p>問5. その他、統合保育に関してご自身の思いがあればお書きください。また、障がいのある子とない子の関わりの場面でお気付きの点があれば自由にお書きください。</p>	
<p>当センター</p>	<p>保育所</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・危険があることもあるし、一方的に納得いかない対応をされることもあると思うけど、私の場合は、小さい頃から大人までずっと統合保育のような場は必要だと思いました。もっと周りに自然にわかってもらえるようにも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃からの意識は必要だと思います。親が言葉で教える事と自分で体験するのでは大きな差があると思います。統合保育の園で生活できてとても良かったと思っています。そして、障がいがない子も皆完全な子なんていな

小学校に兄がいるけど（支援クラス）、障がいのない子たちというか、周りの子たちと過ごす場が欲しくて、学童に通わせています（本人の希望もありますが）。自分の子だけでなく周りの障がいのない子に対しても、何らかの影響を与え、理解ある、興味を持ってくれる大人が増える（社会になる）ことにつながると良いなと思っています。

- ・子どもってじーっと観察していると思いがけない行動をして、大人が思っているよりもとても優しいなと思います。（健常の子が、障がいのある子に対して）大人が1人の個人として対応するとそれにこたえてくれるので、とても勉強になりますし、まだまだ未知の世界が広がっているなと思います。統合保育が小さい頃からあると豊かな感性や情緒が育っていくのではないかと、期待します。
- ・息子には発達障がいがありますが、目に見えない部分の障がいのため、誤解されたり、理解してもらえない部分があります。多分、息子には、息子から見た独自の世界があるのですが、多数の常識とは離れた世界のため、息子にしか感じない生きづらさがあるのだらうと思っています。そのことをわかってくれる理解者、代弁者となってくださる人が、統合保育を行っている各所にたくさん増えてくださったら、これ以上の心強さはありません。そういう社会になってくれることを願っています。

い。皆同じです。

- ・物心がついて、障がいの人に出会うと、特別なことのようにうけとめてしまいがちのような気がします。（この考え方がすでに偏見なのかもしれませんが…）核家族化が進んで、お年寄りと接することのない子どもが、お年寄りを見て、そのシワの多さにビックリ、しりごみしてしまうように… 物心ついていない、純粹無垢な子ども達に、障がいの有無にかかわらず、仮に障がいがあったとしてもそれを、その個性の一つとして、自然体で接することができるようになってほしいと思っています。障がいの有無に限らず、世間には、色々な状況の方がいて、今の世情では、難しいことも多いです。
- ・子ども同士の場面ではないのですが、ある、障がいを持つお子さんのお母さんが「話しかけてくれるのは同じように障がいのある子を持つお母さんだけだ。」と話されているのを聞いたことがあります。胸に突き刺さりました。特に意識せず、同じように接したいと思いつつながら、親同士も何かが違うのでしょうか。親もまた、障がいについて、障がいをもつことについて、理解し関わるべきだと思います。
- ・子どもは結局親を見て真似をすることを考えるので、親自身の姿が行いが大切だと考えます。
- ・自閉症の子と一緒に感じたのは、障がいのない子が我慢をさせられているのはかわいそうと思った。平等であればいいと思う。

5. 保護者アンケートから見えてきたこと

保護者からは多くの、そして深く真剣に統合保育に関しての思いが綴られたアンケート用紙が返ってきた。紙面上の関係で、全てのアンケート結果を載せることができないのが本当に残念である。

今回のアンケートで、統合保育に対し、当センター保護者と、保育所保護者とで意識に差異があることがわかった。

一つ目の差異は、統合保育によるメリットについての捉え方だ。当センター保護者は、子どもの

行動面への発達にメリットを感じている人が多かったのに対し、保育所保護者は、情緒面へのメリットが大きいと感じている人が多かった。

二つ目の差異は、統合保育によるデメリットについての捉え方だ。当センター保護者は、子どもの成長の比較をするなど、保護者自身へのデメリットを上げる人もいた。また、保育所保護者からは、保育士のマンパワー不足を懸念する声が上がった。

三つ目の差異は、統合保育が必要かどうかという考えだ。当センター保護者は、全員が必要であると答えている。また、統合保育をすることで、障がいに対する偏見がなくなるのではないかという期待をもっている保護者が多数いた。保育所保護者の中には、障がいのあるなしで保育の場を分ける必要がなく、一緒に過ごすことが自然（平等）であると考えている保護者が多くいた。しかし中には統合保育は必要ないという意見や、どちらでも良いという意見もあり、当センター保護者と保育所保護者とでの意識に大きな差異があることがわかった。

四つ目の差異は、統合保育について、自由記述をしてもらった所にある。当センター保護者は、統合保育をすることで、障がいに対しての理解が広まったり、差別や偏見がなくなることを期待して書かれている記述が多かった。それに対し、保育所保護者からは、保護者自身が障がいに対して知らないことが多く、自分の子どもから学ぶことが多いこと、子どもに障がいについて聞かれた時、どのように答えればいいわからないことなど、親自身の課題のような記述が多くみられた。

6. 実際の交流保育

交流保育は、1～2週間に一度なので、子どもたち同士、ほぼ毎日が初対面である。特に始めの頃は、子どもたちは自分の興味のあるおもちゃであそび始める。そして徐々に「かして」「いっしょにやろう」などのやりとりが始まる。私が受け持つ肢体不自由児のクラス（以下、『たまごちゃん』）では、抱っこや絵本読みから交流が広がることが多い。筋緊張の強い脳性麻痺のAくんを、『げんきくん』の男の子が抱っこする。あまり背丈が変わらない2人だが、不思議なことにAくんはリラックスし、抱かれる。（『げんきくん』の男の子は結構緊張ぎみ。）スケーターと一緒に乗って滑るのは、みんな大好きで、「やりたい人?!」と聞くとみんな一斉に手を挙げる。『げんきくん』たちの勢いに負けじと、『たまごちゃん』の子も手を挙げたり、「あーあー！」と声を出しアピールをする。この“意欲”は、大人だけでは引き出せないものだと感じている。

子どもはとても素直なので、思ったことをすぐ口にする。「わぁー よだれでてる きったない」、（ペースト食を見て）「なんでこれ、こんなにベチャベチャなの?」。しかし、大人が「もしよだれが出ちゃってたら、ティッシュで拭いてあげて」「Cちゃんはね、みんなみたいに嘔んだり、ゴクンって飲み込むのが、苦手なんだ。だからこうやって、柔らかくしたら食べられるんだよ」と説明すると、「ふーん、そうなんだ!」と納得し、それからはそんなに気にせず関わるようになる。また、他の子に教える姿も見られる。子どもは、関わることに躊躇しない。

当センターと保育所には、共有の園庭がある。『たまごちゃん』は1階にあるので、目の前が園庭の砂場である。交流活動を始めてしばらくすると、『たまごちゃん』のテラスの前に『げんきくん』がよくやってくる。だから交流活動の日以外にも交流ができる。『たまごちゃん』の子どもた

ちも、『げんきくん』との交流を楽しみにしている。肢体不自由の子どもたちは、体調管理が大切で、看護師や理学療法士と連携しながら日々療育を行っている。市内の幼稚園や保育園に併行通園できる子どもが少ないので、この逆統合での交流活動は子どものあらゆる面での成長を促していると思う。

7. 今後の課題

保護者アンケートでもあったように、子どもは親や職員を真似ると言うのは私も感じていることである。保育者が障がいに対し偏見を持ち、誤った解釈をして子どもに説明した場合、子どもはそれを鵜呑みしかねない。保育者が、障がいに対しての正しい理解をし、子どもに伝えていく必要がある。

また、障がいによってはパニックに陥ったり、自傷・他傷したりしてしまう子もいる。そういった時は、クールダウンできるスペースを確保し、パニックにならないような配慮を保護者がしていく必要もある。「他害があるから…」と他の子に避けられることのないようにしなければならない。

保護者同士の関わりも、障がい理解には不可欠だと思う。子どもは、自然と関わり合うことができる。保護者同士も子どもの“障がいの有無”に囚われずに関わるができるように、当センターと保育所の職員とで協力し、茶話会などを設定するのもいいかもしれない。

8. おわりに

私は以前、重症心身障がい児施設で大人の障がいがある方を支援していた。障がいがある方と街に出ると、レストランや映画館などで差別を受けた。偏見の目で見られる人もたくさんいた。しかし私自身、障がいがある方と関わる仕事をする前は、偏見を持っていた。毎朝同じ電車に乗って来る、知的障がいがあるであろう男性が、正直怖かったのだ。その人が私に対して何かした訳ではない。ただただ、「何をするかわからない」「なぜ一人で電車に乗れるのかわからない」「声をかけられても、なんて答えていいのかわからない」…そう、私はその人に対して知らないことだらけで怖かったのだ。

『知らない』で大人になると、余計なことを考えてしまう。偏見や、誤解を持って、相手を見てしまう。私はたまたまこの福祉に携わる仕事をするようになり、障がいがある方への偏見がなくなった。しかし、きょうだいや家族に障がいがある人がいたり、福祉関係の仕事をしていない限り、障がいがある方と街で出会った時に「怖い」と感じたり、無意識に避けてしまう人がいるのではないだろうか。また、今でこそ『障害者差別禁止法』ができたり、『障害者虐待防止法』ができていたりしているが、それに関して無関心な人も多いのではないだろうか。

保護者アンケートでも多数あったように、子どものうちから『知る』ことは障がい者理解への第一歩だと思う。また、保護者や職員は子どもから学ぶことも多い。まずはこの“統合保育”（今では障害者権利条約などを通して広く知られるようになったインクルーシブ保育という考え方が一般的だが）を確立し、障がいがある子・人が差別されるようなことがない社会をつくっていくことが必要だと考える。